

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【オン】地域ビジネス特講VI		
担当者(Instructors)	阿比留 大吉	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
最新技術の進歩は目まぐるしく、5年後の社会がどのように変化しているのか想像することは困難に思える。本講ではバイオテクノロジーをテーマに数年後の社会を劇的に変え得る技術とその影響について紹介する。事実と傾向を読み解き、変わり行く社会の形を議論する。本講ではバイオテクノロジーに関わる実例を見て学ぶことを講義の目的とする。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	本講義はオンデマンド形式で行う。講義の最初にレポートを提出してもらい、講義の前半でそのレポートに対する質疑や内容の再確認、議論を行う。そして新しいテーマや論点の紹介を行う。講義終了後に講義のまとめのレポートを提出していただく。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	バイオテクノロジーとは何か。本講義の進め方と評価方法について	☐
第2回	不老不死は実現するのか。	IPS細胞等に挙げられる再生医療について考察する。	☐
第3回	子供を親が望むスペックにデザインすることはありなのか。	ゲノム編集技術の実態に触れ、デザイナーベビーについて考察する。	☐
第4回	遺伝子組み換え作物の人体への影響とはどんなものか。	遺伝子組み換え技術に関して食料の栄養価や安全性について考察する。	☐
第5回	身体的ハンディキャップとは何か。	筋電義手をはじめとした義手義足の最新技術について考察する。	☐
第6回	地球温暖化は存在するのか。	地球温暖化とエネルギー問題、クリーンエネルギー技術について考察する。	☐
第7回	制御困難な力”原子力”を使うことはやむを得ないのか。	原子力の効果と影響、取り巻く課題について考察する。	☐
第8回	中間まとめ	これまでの講義を通して紹介した内容についてまとめ、議論を行う。	☐
第9回	美・人種差別とは何か。	最新のアンチエイジング薬NMN、美や人種差別の歴史について考察する。	☐
第10回	動物に権利はないのか。	食料問題の解決策としての人工肉技術、動物の権利について考察する。	☐
第11回	死とは何か。意識とは何か。	脳接続型コンピューター「ニューロリンク」による通信技術、死の概念変化について考察する。	☐
第12回	産業廃棄が引き起こす問題とは何か。	産業廃棄の問題、石化燃料の代替として地球温暖化やCO2削減に有効なバイオ燃料について考察する。	☐
第13回	地球が住めなくなる時、人類はどう立ち向かえばいいのか。(産業編)	環境問題と微生物を活用した土壌汚染の浄化技術・SDGsについて考察する。	☐
第14回	地球が住めなくなる時、人類はどう立ち向かえばいいのか。(宇宙工学編)	宇宙工学と宇宙への移住に関する構想について考察する。	☐
第15回	まとめ	これまでの講義を通して紹介した内容についてまとめ、議論・総括を行う。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
配布資料をもとに毎週2時間程度の予習、2時間程度の復習を行うことを推奨する。(合計4時間)

--

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎週講義内容の予習レポートを提出していただく。レポート提出の翌週には予習レポートに基づいて質疑に対して個別での応答、そして共通した疑問があれば全体でフィードバックを行う。議論になり得る論点があれば議論を行い、講義内容の理解を深める。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018地域ビジネスDP2	バイオテクノロジーが社会に及ぼす影響について理解している。 バイオテクノロジーに関する一般的な知見を有し、自分なりの意見を表現することができる。
	◇ 2018地域ビジネスDP3	バイオテクノロジーの概要と主要なトピックについて理解している。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			0%	100%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

1. 2-7, 9-14回の合計12回について、1回の獲得点数を6点(予習レポート2点, 復習レポート4点)の合計72点で評価する。
2. オリエンテーション6点, 中間まとめ・まとめレポート各11点ずつの合計28点で評価する。
3. 1, 2の総合評価で100点とする。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	配布資料	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	各回のテーマに即して適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		